

課 長	課長補佐	係 長	記 録

☒開示

☐一部開示

☐不開示 (理由: 条例第 条第 号 該当)

☐時限不開示 (開示: 年 月 日)

【所属名: 文化振興課】

【会議名: 令和 7 年度 糸魚川市文化財保存活用地域計画推進協議会 】

会 議 録

作成日 令和 7 年 10 月 21 日

日	令和 7 年 10 月 17 日(金)	時間	13:30 ~ 16:00	場所	市役所 203 会議室
件名	(1) 正・副会長の選任について (2) 糸魚川市文化財保存活用地域計画の概要確認 (3) 本協議会の役割について (4) 各種経過報告 (5) 進捗評価及び意見交換 ア 進め方の説明 (事務局) イ 自己評価の説明(事務局) ウ 本協議会の協議 エ 意見交換 (6) 令和6年度評価の答申案等について				
出席者	【出席者】9 人 渡邊委員、伊野委員、小掠委員、小野委員、吉田委員、斎藤委員、小野本委員 ジオパーク協議会山崎委員代理小林事務局次長 オブザーバー：糸魚川地域振興局 玉井地域振興監 【欠席者】1 人 木島委員、 【事務局】6 人 嵐口課長、榊課長補佐、渡邊係長、七澤主査、小池主任主事、藤木職員				
	傍聴者定員	-人	傍聴者数	0人	

会議要旨

会議開会 (13:00)

1 協議題

(1) 正・副会長の選任について

・委員から事務局一任との声あり。

事務局の提案である、伊野委員に会長、吉田委員に副会長をお願いしたい旨、承認された。

(2) 糸魚川市文化財保存活用地域計画の概要確認

【事務局説明】

令和 5 年 7 月に、新潟県で初めての認定を受けました。

文化財の保存や活用の考え方を、人口減少や社会変化に応じた方向で再構築するもの。

地域総がかりで、文化財の課題に対応する趣旨である。

目次の序章から第 3 章までは、市の特徴で、要約しますと、

糸魚川には、ヒスイにまつわる壮大な文化ストーリーがある。

第一フェーズが、約 5 億年前の地殻変動期で、翡翠ができた。

第二フェーズが、縄文時代で、糸魚川から全国に、ヒスイが旅立った

第三フェーズとして、昭和の初期、相馬御風の郷土研究が端を発し、ヒスイを再発見。その発見があって、三内丸山をはじめとする全国の出土ヒスイが、糸魚川産であることが分かり、国指定文化財に繋がる大発見であった。

そして現在が第4フェーズで、新潟県の石として、地域の力として売り出している。

53ページは、地域計画の「肝」の部分で、地域総がかりという将来像がある。

第5章以降は、各分野における課題と、実施すべき措置がある。

10ページでは、計画の進捗評価を、この推進協議会で行っていただきたい、地域総がかりで、保存と活用に取り組む計画となっております。

(質疑意見特になし)

(3) 本協議会の役割について

【事務局説明】

設置要綱第2条、第1項は、大きな変更等がある時に、ご審議いただく。

第2項は、地域計画の進捗評価である。

本件について、教育委員から諮問があり、結果を答申いただきたい。

基本は、年に1回開催するイメージだが、状況に応じて臨時開催もある。

(質疑意見特になし)

(4) 各種経過報告

【事務局説明】

審議の参考として、文化に関する近況を申し上げる。

はじめに、文化芸能では、コロナ後、市民会館を中心に活動が戻っている。

中でも、NHKのど自慢など、各種公演事業は好評で、観覧者の満足感だけではなく、客席の雰囲気が温かく、演者やスタッフにも好印象。これが、業界へ、良い印象としてつながっている。

次に、フォッサマグナミュージアムは、昨年度、開館30周年、本年度来館者数200万人を達成した。

ミュージアムは展示がクローズアップされるが、学芸員の活動が大きなカギで、教育活動、地域講演、研究、学会連携、論文発表など、バックヤードにおける見えない蓄積が、大きな成果につながっている。

次に、長者ヶ原考古館は、フォッサミュージアムに関連して、入館者数を増やしている。

潜在力がありますので、今後、さらにワクワク感が出るよう、取り組んでいる。

次に相馬御風は、映画制作が進んでおります。

映画を機に、いろんな面で繋がっていきたい。

次に課題は、いずれも社会変化や人口減少からくる課題である。

文化財収蔵庫、文化財に対する支援のあり方は、文化財保護審議会に諮問中。

このほか、カモシカ対応、コスモクロアの盗掘対策などがある。

諸課題の解決には、マンパワーが不足しており、関係者の皆様のご支援が必要。

【質疑・意見】

○コスモクロアについて】

- 委員 コスモクロアの盗掘について、その後の対応はどうか。
被害の状況は大きいのか、小さいのか。
- 事務局 現地の柵を増強、カメラの増設、監視体制の整備を計画している。
大きさは、手のひらサイズである。
被害として、見た目には2か所が見えなくなった訳だから大きい。
ただ、地中に点在している可能性が高く、全体としては残っている。
今後、大学の先生など、専門家を通じて対策を取りたい。

○マンパワーの不足について

- 委員 どの部門の不足と感じているか。
- 事務局 まず、行政である文化財係が足りていない。
そして所有者や管理者をはじめ、全体として足りていないと感じている。
- 委員 マンパワーは確かに不足している。
そもそも歴史や民俗の学芸員などの専門家が足りていない。
- 委員 評価において、マンパワー不足と各項目の連携面が、繋がってくる。

(5) 進捗評価及び意見交換

ア 進め方の説明 （事務局）

【事務局説明】

はじめに、イ、文化振興課の自己評価を申し上げ、続けて、文化財保護審議会が教育委員会に提出した中間報告をご紹介します。

どう評価していただきたいか、という評価基準は、3段階でお願いしたいとした。

これを書面でお願いしたい。

仮に、答申案を作ったが、さらに附帯意見をいただき、完成していただきたい。

ご意見は、休憩時間中に事務局が、まとめる。

（質疑意見特になし）

イ 自己評価の説明（事務局） 省略

ウ 本協議会の協議 及び エ 意見交換

○新たに開始した事業の表示

委員 地域計画を策定して新たに開始した施策と、それが今どのような状況にあるのか表示願いたい。

事務局 文化財所有者アンケートを行い、文化財台帳の整備に活用した。また、情報発信セミナーを開催し、文化財所有者がブログで情報発信を行った。他に数点を行っている。

○奴奈川姫・婚活関係

委員 措置 71 と 72 の（内容次第）という表現は、何か。

事務局 活動の種類によって、実施する課が異なってくる。
婚活について、社会情勢の変化に合う形で精査したい。

委員 奴奈川姫に関連して、大うす祭りや奴奈川祭りは、どの部署の管轄か。

委員 民間の事業である。（商工会で、観光協会は補助金支出）

委員 民間であれば、それはそれで当該計画に沿っていると考ええる。
マンパワーの活用と言える。

○自己評価が低いと感じる項目

委員 措置 34 と 35、防災対策のパンフレットがC評価になっているが、説明を聞いていると、すでに開始し、徐々に実施しているので、決してCではないと思う。

事務局 ありがとうございます。
防災や防犯は大切であり、さらに細かく周知していきたい。
目標は、冊子にしてお配りすることを考えている。令和7年度にパンフレットを配布したので、令和6年度評価をC評価とした。

委員 文化財の把握調査など、今まで行ってきた実績があり、評価に入れてもらおうとすれば、Cや未着ではない項目があると思う。

委員 データ整備など、すでにある程度の蓄積がある項目は、全体の進捗率を考慮してもらおうとありがたい。
決して未着手ではない気がする。
今までやってきたことも、評価願いたい。

事務局 措置 4 と 5、未指定の文化財は、ある程度リスト化してあるが実地調査をしていない。

把握調査と言う観点で、未着手とした。検討する。

委員 市民が実施している項目もあると思うので、評価に反映してほしい。
すべて市が行うわけではないから、市民が行うことは良いことだと思うし、
評価に入れてもよいと思う。

委員 措置 28、私は指定管理者として資料館を運営し、ボランティアを組織している。
このこと反映できるとすれば、市として何もしていないわけではない。
個々のボランティア団体としても、考えてもらいたい。

事務局 措置 28 は、第一に統合的なボランティア団体の設立を目的としているが、言
われるような民間が頑張っている部分がある。
第一手法、第二手法があると考え、分けて検討してみたい。
両方が評価されるようにしていきたい。

委員 公民館で文化的ボランティアをしている人も、該当すると思う。

委員 今までやってきたことを評価に加えたらいかがか。
そのあたりも、もう一度検討していただきたい。

○学芸員の活躍

委員 現学芸員の活躍は素晴らしい。
一方、歴史の学芸員だが、募集して集まるものなのか。

委員 他の自治体は、歴史の学芸員がいるという例をよく聞く。
糸魚川市はジオパークゆえ、現学芸員構成となっていて、今の活躍がある。

事務局 埋蔵文化財の職員が多い。
歴史系博物館があるなど、施設に応じて学芸員が配置されているようだ。
人材はあると思う。
早めの告知だと思う。

○成果の見せ方

委員 K P I など、具体的な目標数値があれば、評価しやすい。
例えば、データ整理は「ここまで」という数値があると、ありがたい。

委員 成果や目標を表示しにくい分野であるが、何をどこまで行けば良いのか、が明
確になると推進協議会で評価しやすくなる。

来年、評価しやすくなるよう、工夫していただきたい。

事務局 評価の方法自体が糸魚川市独自の方法でもあり、工夫してみる。

委員 具体的にこれが出来たという項目や、学芸員の活躍が、うまく表示されていないように感じる。

この評価を、公開する場合も考慮して、見せ方を再構築したらどうか。

委員 措置が100もあると、それ自体にマンパワーが必要になる。なんとか精査できないか。

そのことで、事務局に停滞感が出ていると思う。

事務局 その通りだと考える。

ただし、この計画により文化の統一感が出来てきた。

公開する、しないに関わらず、事務局として傾向が分かるようになったことは大きい。

委員 行政以外の部署の状況を聞いてみて、例えば婚活等をどのようにするのか、行政だけではない取り組み方を整理することもありだと思う。

地域計画に記載している事項だから、行政がやっていないように見えるのであって、決してそうではないから、見直してみしてほしい。

事務局 各種団体に聞いてみる。

項目を再検証する。

転換もあり得る。

項目の加除修正をしようとする場合は、県と協議して対応する。

コロナ後の社会変化があって、見直しの時期だと思う。

委員 例えば婚活だけ単発で考えるのではなくて、観光協会の補助金など、まとめて考えると良いと思う。その方が分かりやすいと感じる。

○評価方法について

委員 新発田市や他県の評価方法を参照してはどうか。

事務局 文化庁の研修会で評価の仕方が課題となった。

基本的に文化庁は自治体の方法に委ねているので、条件に合った評価を行うことになる。

A B C方式、言葉によるもの、K P Iで数値化するものなど、多様である。

それぞれ良い面、悪い面があり、当市はA B C方式で開始した。

どの市町村も手探りである。

委員 糸魚川方式で進めながら、改良していけばどうか。

委員 市の予算で歳入不足が課題である。
今後は支出を切り詰めていくことになるだろう。
もっと厳しくなる時代に、たくさんの項目があって、難しい。
その中で、あれもこれもやろうとするのは現実的に難しいだろう。
広く連鎖効果が得られる人材確保など、的を絞って考えてみたらどうか。

委員 R6 年度に実施していなければ未着なのか、と思う。

委員 個々の施策だけれど、実施ではまとめて評価する（検証する）方法があっても良いと思う。

委員 まさにそう思う。100 は実施、評価共に大変だ。

事務局 そのように、再検証する。

委員 今日内容を聞いて、1 年経過して評価できると感じた。

委員 文化財全体で、数量が多いと思う。
各種調査をしてもらった記憶もあって、決して未着ではないと考える。

○進まない項目の年度変更

委員 実施が進まない項目について、年度の延期等を検討するかどうか。

事務局 状況によるので、県と相談する。
今日以降、検討を始める。

○施策の繋がり

委員 措置 1 1 番や 2 8 番の繋がりがあるということでもある。
一つをやると、繋がって展開していく発想も大切だと感じた。

○評価の協議

委員 評価は順調というよりも、もう少し課題があるぞという事だろう。
すごく頑張っている、しかし課題もたくさんある。

- 委員 今後進めていく上では、もっと必要なことがある、と考えた。
順調でないとする、今やってもらっていることがどうなのか、という事になる。そう解釈されないようにしていただきたい。
- 委員 おおむね順調だという表現かと考える。
- 委員 これだけ頑張っているのに、なぜ順調にっていないのかを示すことだと考える。この計画ができたばかりなのに、1年目から人員不足と言うのはどうだろうか。
この計画を実施していくために、この分野が不足しているという形がよからうかと思う。
となると、社会情勢による影響ではなくて、直接不足していると述べたほうが良いかもしれない。
この計画は、国に約束している計画という位置付けではないだろうか。
実施状況を踏まえたほうが良いと思う。
- 委員 その一方で、人員不足があって進んでいない項目があるものの、特に進んでいる項目があること、79項目のうち70%が進んでいることを考えると、遅れていると言えるのかどうか。
- 委員 進捗していないものについては、専門の人材が不足しているという表現はどうか。
- 委員 施策を繋げて考えること、繋げる体制が大切だと思う。
- 委員 施策（項目）の中身の書き方も整理が必要だと思う。
まとめること、繋げて考えることも必要という意見だと理解した。
- 委員 学芸員の専門性と、他の視点を繋げた取組をしていただきたい。
広がりと繋がりを作るような視点であったほしい。
- 委員 評価として、順調だと考える方法もあろうが、これが無ければ危ういという重要課題を解決するため、あえて「遅れている」とする方法もあるのではないかな。
支援してもらうには、はっきり伝えた方がいいのではないかな。
- 委員 当協議会を10月に行うことは、遅いと思う。
年度末や年度当初に行い、実績審査と新年度用の審査を行うべきだと思う。
- 事務局 その通りである。
早期に行うことで進めていたが、10月になり、大変申し訳ない。

(休憩) 15:30～15:45

(再開)

(6) 令和6年度評価の答申案等について

休憩再開後、答申案の内容を以下のとおりとし、附帯意見を付け、答申の文案調整については正副会長にすることとした。

○進捗評価

概ね順調である。

○附帯意見の要約

ア 措置の項目について、社会状況の変化に合わせて内容を整理願いたい。

イ 措置の実施にあたり、施策を繋げて実施する体制や、措置をまとめて評価検証する方法を検討願いたい。

ウ 糸魚川の歴史・民俗分野（古文書等を含む）を支える後継者が減少して危機的な状況にある。地域計画を推進するためには、歴史・民俗の専門的な人材は必要で、専門学芸員を早期確保願いたい。

また、広がりと繋がりは大切である。関わる人たちが、いろんな視点を取り入れ、広がりや繋がりを作って活動するような視点の育成に取り組んでいただきたい。

閉 会（16:10）